

インターバンクの声（2016年9月7日）

多少の振れ幅はあるものの103円台前半から104円台前半のレンジ内取引が再来週の日銀政策会合やFOMCまで続き、来週火曜までのブラックアウト期間まではFRB高官から予定外のインタビューなどが飛び出す可能性も含めて、相場が動くのは要人発言ではと身構えていたものの、昨晚発表のISM非製造業景況指数にこれほど振らされるとは予想外であった。

先週のISM製造業景況指数の低下は何とか雇用統計でカバーしたものの、製造業に続き、非製造業は2010年2月以来の低水準となれば早期利上げ観測は後退するのにも致し方ない。

さらに、イエレン議長が注目しているとされる19の指数で構成される労働市場情勢指数も-0.7と今年に入って以降、7月の+1.0を除くと全てマイナス圏という結果に。8月半ば以降、早期利上げに前向きな発言が続いたFRB高官の発言が修正を余儀なくされるのか注目である。果たして、日本時間の明朝3時に公表される地区連銀経済報告(ベージュブック)が、現状50%ほどの確率で予想されている年内利上げ観測にどのような影響を及ぼすのか。ドル円は昨晚のこれらの指標発表前の103円37銭から101円94銭まで大幅下落となったが、この101円90銭台は7月29日に日銀がETF(上場投資信託)買入れ枠の増額を決定したものの、市場の失望を誘い105円63銭から101円97銭まで急落した下値水準とほぼ肩を並べる水準だけに、ここで下げ止まることが出来るのか、再度100円割れを目指すことになれば日銀政策会合への期待を醸成させる可能性もあるだけにドル円にとっては正念場かもしれない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。